

〔報告者〕

○麻田 友子（あさだ ともこ）

京丹後市国際交流協会 事務局長



<プロフィール>

兵庫県豊岡市出身。平成20年11月から京丹後市国際交流協会勤務。  
平成21年9月に当協会の日本語教室の立ち上げを行う。平成24年に多文化共生マネージャーとして認定を受ける。平成26年「京丹後市多文化共生推進プラン」策定の事務局を担当。平成28年4月熊本地震での「災害時多言語支援センター」の活動に参加。  
平成24年 地域日本語教育コーディネーター研修受講

<所属団体紹介>

平成20年3月設立。平成21年9月から日本語教室をスタート。“一人ひとりの日本語教室”として、学習者のニーズ、レベル、生活スタイルに合わせた教室を開催。

平成25年から、協会の活動目標に「多文化共生社会の実現にむけた取り組みの推進」を掲げ、地域への理解促進や外国人が活躍できる土壌づくりを行っています。

**国際理解の啓発  
及び推進**

- ・国際理解教室
- ・外国語講座など

**多文化共生**

- ・多文化共生推進事業
- ・災害時の外国人支援など

**交流推進**

- ・ホームステイの受入れ
- ・料理教室など

**日本語教室**

- ・日本語ボランティア養成
- ・日本語教室交流会など



〒627-8567

京丹後市峰山町杉谷889（京丹後市企画総務部企画政策課内）

電話番号：0772-69-0120 FAX：0772-69-0901

Facebook <http://www.facebook.com/kyotangokia>

Eメール [kokusai\\_koryu@kyotango.net](mailto:kokusai_koryu@kyotango.net)

## <活動内容>

### 『日本語教室（学習者&支援者） = 多文化共生の担い手づくり』

“ひとり一人の日本語教室”として、個別のニーズに対応しながら、各学習者のライフステージにあわせて地域社会への参加、参画を目指していく。

#### 1. 課題

京丹後市内における外国人数が平成27年から増加。（米軍関係者の居住開始や技能実習生の増加）これまでは、“永住者”“日本人の配偶者等”の方多く、これからも長く日本に住むという方が多かったが、近年は仕事などで数年の滞在の方が多い。短期的滞在の方にも日本語教室での学習者が増え、ボランティアの不足となっている。また、短期的滞在の方にも、地域社会との接点や地域への参加、参画を望んでいる声が多いが、なかなか地域との繋がりの機会がない。

#### 2. 課題解決のための方法と手順

##### 【① 現状把握・課題設定】「外国人市民にアンケート」

京丹後市多文化共生推進プランの見直しに合わせ、外国人市民にアンケートを実施（聞き取りも行い、平成29年9月下旬締切）外国人→Q どのような活動がしてみたいか など、外国人が活躍してみたい場面での土壌づくりができていくか。

##### 【② ファシリテーション】「外国人も地域活動をしたい」

市広報市で外国人状況などについて記事を掲載。日本語学習者をニュースレターなどで紹介。外国人も地域活動をしたいという希望を市民に伝える。

##### 【③連携】「関係機関との情報共有」

市（企画政策課、秘書広報広聴課、情報政策課など）、地域公民館、企業、各種市民活動団体など。日本語教室の“見える化”を広げていく。

##### 【④ リソースの把握・活用】「活躍する外国人を紹介」

日本語ボランティア同士の連携と情報共有を行い、“一人ひとりの日本語教室”での学習者の成果や課題をまとめる。日本語教室交流会で、学習者同志の交流の場を設け、それぞれの立場での活動を紹介。

#### 3. 成果

地域の公民館活動（運動会、文化祭）などに外国人に参加してもらいたい、イベントでのボランティア活動を一緒にしたいなど、地域からいろいろな参加のお誘いが増えた。地域との関わりが増えてきたことにより、学習者のモチベーションも上がっている。

#### 4. 今後の課題

持続可能な日本語教室とするために、日本語教室コーディネーターの育成。